

平成29年6月27日

No. 17-177

株式会社 いよぎん地域経済研究センター

今後予定される道後温泉本館保存修理工事の影響と道後観光の未来

～どうなる！どうする！道後温泉！～

株式会社いよぎん地域経済研究センター（略称IRC、社長 重松 栄治）では、このたび下記のとおり、来年以降に予定されている道後温泉本館の保存修理工事の影響について取りまとめましたので、お知らせいたします。

なお、詳細は2017年7月1日発行の「IRC Monthly」2017年7月号に掲載いたします。

記

【調査概要】

- ・ 全国でも有数の温泉地である道後温泉。その中核である道後温泉本館では保存修理工事が控えており、道後観光、ひいては愛媛の観光に大きな影響を与えかねない。
- ・ 2012年度の松山市の調査では、完全閉館（工期8年）で約▲592億円、部分開館（同11年）で約▲466億円の経済波及効果が推計されている。これを工事期間を短縮して再計算したところ、完全閉館（同6年）で約▲475億円、部分開館（同8年）で約▲348億円と試算された。
- ・ 道後温泉に関するアンケートを実施したところ、工事開始前に駆け込み需要が発生すること、工事中は観光への影響は免れないこと、工事終了後には来訪意向が高まることが明らかとなった。
- ・ 経済への負の影響を軽減するには、①観光客を増やす（正確な情報を積極的に伝える、行動させる企画とリピーター・地元客の誘致、魅力ある誘客施設の整備など）、②1人当たり観光消費額を増やす（遠隔地からの誘客促進、消費を促す仕組みの構築など）、③県内調達率を高める（愛媛産の食材活用とメニュー開発、地域・産業振興とともに観光振興に取り組む）ことなどが必要である。
- ・ 道後温泉本館の保存修理工事をチャンスと捉え、愛媛の観光の柱として、工事のその先をも見据えたプロデュースが、オール愛媛体制でなされることを期待したい。

以上

はじめに

初代道後湯之町町長の伊佐庭如矢^{いさにわゆきや}が100年の計をもって整備した、道後温泉本館「神の湯」棟が完成してから120余年。道後温泉は全国でも有数の温泉地として多くの観光客を集めている。

その中核である道後温泉本館では保存修理工事が控えており、道後観光、ひいては愛媛の観光に大きな影響を与えるとともに、これからの100年を占ううえでの大きな分岐点となることは間違いない。

そこで、保存修理工事の影響と工事後の道後観光の在り方について取りまとめる。

1. 保存修理工事に至る経緯

2000年度に実施された道後温泉本館（以下、本館）の総合診断において、「今後永く維持・活用していくためには、大規模修復が必要であるとともに、大規模地震に耐えうる、本格的な保存修復工事が早期に必要である」との報告がなされた。

これを受けて修復予備検討が実施され、工事中も入浴可能な部分開館方式にて、工事期間3期11年、総事業費約20億円の方針が示された。その後、「松山市道後温泉活性化計画審議会（以下、審議会）」により、工期の短縮を図る耐震等工事設計が実施され、16年に答申が提出されている（図表-1）。

2. どうなる！道後温泉

（1）完全閉館 or 部分開館

審議会の答申によると、工事方式については、「完全閉館方式」と入浴客を受け入れながら工事を行う「部分開館方式」について検討がなされている。完全閉館方式では、建物全体を同時に工事できることから、工事期間短縮と工事費用軽減が可能である。一方、部分開館方式では、工期が延びるものの入浴客の受け入れが可能なることから、観光への負の影響が軽減されるといったメリットが提示されている。

なお、2012年度に実施された「松山市経済における道後温泉観光産業影響等基礎調査」では、完全閉

館（工期8年）で約▲592億円、部分開館（同11年）で約▲466億円という経済波及効果が推計されており、現在は部分開館方式での検討が進められている。

（2）工事計画

審議会では、部分開館方式の採用を見据え、大きく2期に分けての工事計画を示している。

I期工事では、「神の湯（男）」を仕切って入浴客を受け入れながら、「神の湯（女）」、「又新殿」、「霊の湯棟」、「南棟」を工事することとしている。そしてII期工事では、「神の湯（女）」と「霊の湯（男）」で入浴客を受け入れながら、「神の湯棟」、「玄関棟」、「事務所棟」を工事することとしている。

なお、本年9月、飛鳥時代をイメージした温泉施設「道後温泉別館 飛鳥乃湯泉^{あすかのゆ}」がオープンする。これにより、130人（男女各65人）の入浴定員が増加することから、これを含めた入浴定員は、工事開始後でも現況より増加することとなる（図表-2）。

図表-1 道後温泉本館保存修理工事の経緯

年度	経緯
1998	文化庁より重要文化財保存活用計画策定通知
2000	道後温泉本館総合診断実施
2002~2005	修復予備検討
2005	「道後温泉本館保存修復計画検討委員会」最終報告
2006	道後温泉本館保存修復工事影響調査
2008	道後温泉本館改修に係る要望書（道後温泉旅館協同組合、道後商店街振興組合）
2012	松山市経済における道後温泉観光産業影響等基礎調査
2012~2016	修復予備検討の見直し

図表-2 保存修理工事に伴う入浴定員の推移
(単位:人)

	現況		I期		II期	
	男	女	男	女	男	女
神の湯	80	40	40	40	0	40
霊の湯	20	10	0	0	20	0
本館計	150		80		60	
(参考) 飛鳥乃温泉	0	0	65	65	65	65
合計	150		210		190	

(3) 周辺道路への影響

工事中は、作業や資材保存のためのスペースが本館南側と東側を通る県道まで及び、道路交通への影響が想定される。審議会では、交通への影響や作業の効率性、景観等の視点、関係機関の意見等を踏まえ、「一車線化（片側交互通行）」を推奨している。

交通渋滞の発生は、来訪者の満足度の低下につながる恐れもあることから、チェックインやチェックアウトの時間のコントロールやパークアンドライドの推進、信号サイクルの調整など総合的な交通影響緩和策が求められる。

3. 保存修理工事の経済へのインパクト

(1) 期間短縮による経済波及効果の推計

松山市による経済波及効果の試算は、前述のとおりであるが、その後の工事設計の見直しにより、完全閉館で5～7年、部分開館なら7～9年まで短縮可能との見解が示されている。

そこで、入浴客数の減少率を松山市の試算と同様とし、工事期間を完全閉館6年、部分開館8年として「平成23年愛媛県産業連関表」を用いて経済波及効果を再計算したところ、完全閉館約▲475億円、部分開館約▲348億円と試算された。また税収効果は完全閉館▲41億円、部分開館約▲30億円となった。

(2) 減少率半減による推計

実際には、飛鳥乃湯泉オープンにより入浴定員が増加することなどから、入浴客数の減少はある程度抑制されるものと考えられる。

そこで、減少率を当初試算から半減して経済波及効果を再計算したところ、完全閉館6年で約▲251億円、部分開館8年で約▲190億円と試算された。また税収効果は完全閉館▲22億円、部分開館約▲16億円となった（図表-3）。

なお、今後の各種観光施策の展開次第で、マイナス幅はさらに圧縮されるものと予想される。観光の柱である道後への、投資の選択と集中が求められる。

図表-3 保存修理工事による経済波及効果

	経済波及効果 (億円)	税収効果 (億円)	雇用効果 (人)
(参考) 松山市推計分【2012年度】			
完全閉館8年	▲592	-	▲5,500
部分開館11年	▲466	-	▲4,300
今回推計(1) 期間短縮による推計			
完全閉館6年	▲475	▲41	▲4,700
部分開館8年	▲348	▲30	▲3,400
今回推計(2) 減少率半減による推計			
完全閉館6年	▲251	▲22	▲2,500
部分開館8年	▲190	▲16	▲1,900

注：推計に用いた産業連関表のほか各種条件設定が異なるため、松山市推計分との比較はできない。

(3) とはいえ、楽観できない影響

経済へのマイナスの影響は軽減可能とはいえ、楽観はできない。例えば、宿泊客が1割（年間約9.6万人）減少するだけでも、1日あたり約260人の宿泊客が消失する。観光庁の宿泊旅行統計から単純計算すると、旅館・ホテル2軒超分の宿泊が消滅することになる。こうしたことから、短期的には、旅館・ホテルへの影響は避けられず、宿泊客の減少抑制に向けた取り組みが一層求められるところである。

4. 道後温泉に関するアンケート

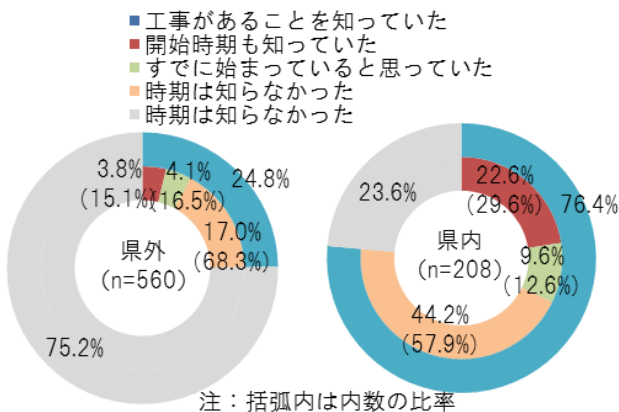
IRCでは、以下のとおり、道後温泉に関するアンケートを実施した。

調査概要および回答者属性	
調査時期	2017年5月中旬
調査対象	関東圏、近畿圏、中四国に在住する個人
調査方法	インターネット調査
有効回答	832人
居住地	関東圏 208人 近畿圏 208人 中四国 208人 愛媛県 208人

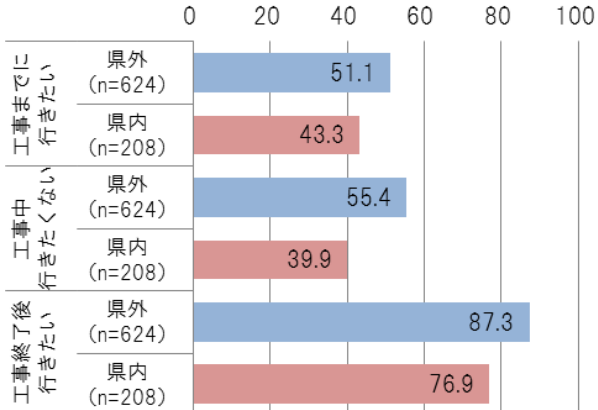
(1) 保存修理工事の認知度

保存修理工事の認知度を尋ねたところ、県外の24.8%、県内の76.4%が「知っている」と回答した。一方で、工事の開始時期まで認識している人は少なく、工事を知っている人のうち、県外の16.5%、県内の12.6%が工事がすでに始まっていると勘違いしていた（図表-4）。

図表-4 工事に関する認知度



図表-5 工事の来訪意向への影響 (%)



(2) 来訪への影響

工事による来訪意向への影響について尋ねたところ、「工事が始まるのであればそれまでに訪れた」と回答した人は、県外が51.1%、県内が43.3%となった。

一方、工事開始後については、県外の55.4%、県内の39.9%が、「工事中であれば行きたいとは思わない」と回答した。

工事終了後については、県外の87.3%、県内の76.9%が「行ってみたい」と回答した(図表-5)。

(3) 工事中の対応策

どのような企画があれば、工事中に道後温泉を訪れる機会が増えるかを尋ねた。「リニューアル後の優待・優先入浴券配布」が26.1%で最も多く、次いで「工事中に利用可能な割引券等配布」、「工事中しか

見られない内部の見学」、「新たな温泉・温浴施設の整備」となった。

5. どうする！道後温泉

経済への負の影響を軽減するための方策について、アンケート結果も踏まえながら、経済波及効果算出の根拠となる、観光消費額(=観光客数×1人当たり観光消費額)増加と、県内調達率向上の観点から取りまとめる。

◆観光客数を増やす！

- ① 正確な情報を積極的に伝える
- ② 行動させる企画とピーター・地元客の誘致
- ③ 魅力ある誘客施設の整備
- ④ 既存の観光資源に継続的な変化を加えるような投資
- ⑤ ファンづくりにつながる仕組み
- ⑥ さまざまな旅行ニーズへの対応
- ⑦ 本館以外の外湯や内湯の価値向上

◆1人当たり観光消費額を増やす！

- ① 遠隔地からの誘客促進
- ② 消費を促す仕組みの構築
- ③ 滞在日数・滞在時間の増加

◆県内調達率を高める！

- ① 愛媛産の食材活用とメニュー開発
- ② 観光と地場産業との連動

おわりに

道後温泉本館の保存修理工事に対しては、危機感が必要であるし、実際、愛媛の観光への影響は免れないのも事実である。

しかし、観光は“観せ方”次第。工事をチャンスと捉え、“工事中しか体験することのできない道後”をしっかりとプロデュースできれば、長期的にはプラスの効果を得ることも可能だろう。飛鳥乃湯泉をはじめ、さまざまな施策が実施・検討されているうえ、そのほかにも対策の余地は十分残されている。愛媛の観光の柱として、工事のその先をも見据えたプロデュースが、オール愛媛体制でなされることを期待したい。(宮内 雅史)